

はじめに

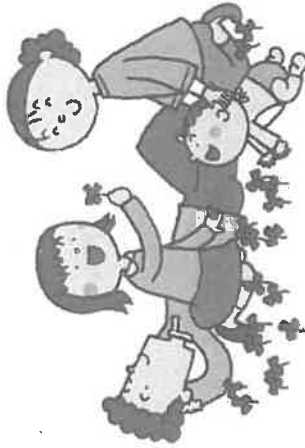
大垣市教育長
山本 譲

来年新一年生の保護者の皆様、お子様のご入学おめでとごございます。

入学されるにあたって、わが子が明るくたくましい子に育てて欲しいと心から願っておられることと思います。

子どもの健やかな成長を願う親の心は、いつの時代にも変わることがありません。将来の担い手である子どもが、家庭・学校・地域社会とのかわりの中で心もからだも健やかに育まれることを願い、大垣市教育委員会では「保護者のてびき」を作成しました。

このてびきが、これからの子育てと明るく住みよい地域づくりの手助けに大いに役立つことを願い、ここに小冊子をお贈りします。



もくじ

- 1. 心の通う一家団らんを大切にしましょう1
- 2. あいさつで心と心をむすびましょう1
- 3. お手伝いを通して、家族の一員の自覚を育てましょう2
- 4. 早寝早起き・朝ごはんを習慣化しましょう2
- 5. 家族のルールを大切にして守りましょう3
- 6. 善悪の判断を大切にしましょう4
- 7. 物の大切さを教え、がまん心を育てましょう5
- 8. 地域の一員として、地域の活動に連んで参加しましょう6
- 9. 自然とふれあう体験や読書を習慣化しましょう7
- 10. いじめについて考えましょう8
- 11. 子どものよさを認めほめましょう9

1 心の通う一家団らんを大切にしましょう



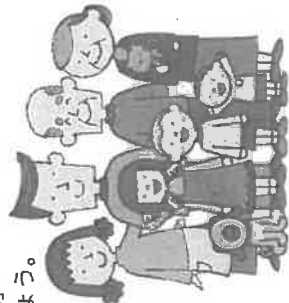
家族一緒にの食事と楽しい会話は、家族のささずなを層深くします。

- テレビ・携帯をお休みして、会話を楽しみましょう。
 - 親の方から楽しい話題を提供しましょう。
 - 子どもや家族の話に耳を傾けましょう。
- 「聴いてもらえた。」「わかってもらえた」という喜びと安心感を与えます。

2 あいさつで心と心をむすびましょう

朝、大きな声で「おはようございます。」とあいさつされると気持ちのよいものです。あいさつは家族をはじめ、地域の人との輪を作ってくれます。まずは、お父さんお母さんから明るいあいさつをしましょう。

- 朝は元気な「おはよう」で始めます。
- 食事では、「(命を)いただきます」「(命を)ごちそうさまでした」と感謝の気持ちを表しましょう。
- 「行ってきます」
- 「ただいま(帰りました)」
- と、元気をアピールしましょう。
- 今日も一日無事に過ごし、「おやすみなさい」で締めくくります。



3 お手伝いを通して、家族の一員の自覚を育てましょう

家庭は、保護者を中心に家族全員が力を合わせて生活する所です。みんなが気持ちよく過ごすために、子どもにも役割を与えて、家族の一員としての自覚を育てましょう。まずは、自分の洗濯物をたたむ、家族のお箸を並べるなどから始めてみましょう。

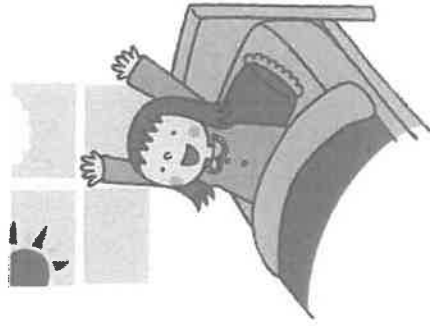
- よく話し合っ、成長に応じた仕事を与えましょう。
- 「ありがとう。助かるわ。」「御苦労さま」と、感謝の言葉や励ましの言葉をかけましょう。



4 早寝早起き・朝ごはんを習慣化しましょう

生活リズムを整える早寝早起き朝ごはん。朝日を浴びて日中に軽い運動をすると、夜ぐっすり眠りやすくなります。さらに、朝ごはんを食べると、勉強に集中できます。

「でも、朝は忙しくて、ちゃんとした朝ごはんを作るのは大変。」そんなときは、パンに添える飲み物を牛乳にしたり、ヨーグルトやチーズなどの乳製品を加えたりしませんか。野菜ジュースもいいでしょう。納豆などの発酵食品も体によいのです。なるべく好き嫌いをく食べられるように、工夫しましょう。



5 家族のルールを大切に守りましょう

情報モラルについて話し合おう

年々、ネットトラブルが低年齢化しています。「うちでは携帯を持たせていないから、大丈夫。」と思っていると、ゲーム機によっては、インターネットに接続したり、課金子どもでもできたり、見知らぬ人とつながったりが可能で。

個人情報情報の漏えい、ネットいじめに巻き込まれる危険性が大変高いです。また、最近では、小学生の「ゲーム障害」も増えています。注意しても時間が守れない、ほかのことに興味を示さない、ゲームを夜中にやっついて朝起きられないなどの症状が続くと、「ゲーム障害」が疑われます。そうならないために、「ゲーム機やパソコン・携帯の使い方について、話し合います。また、携帯にはフィルタリングをかけて、無用なトラブルを防ぎましょう。

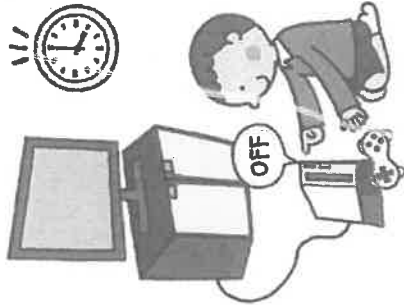
- 食事中や家族との団らんとのときは使わない。
- 使う時間は1時間までとする。
- 夜、自分の部屋にもっていかない。
- 勝手に掲示板などに人の悪口を書き込まない。
- ゲームのアイテムなどを勝手に買わない。
- 知らない人からのメールには絶対返信しない。
- 自分の家族・友達の情報（名前・住所・年齢など）を載せない。



我が家のルールを家族で決めよう

子どもは、家庭のルールや約束を守ったり破ったりしながら、周りの人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

子どものルールや約束は、具体的なものがよいでしょう。内容は、守れたか守れなかったかがはっきりするものがよいです。

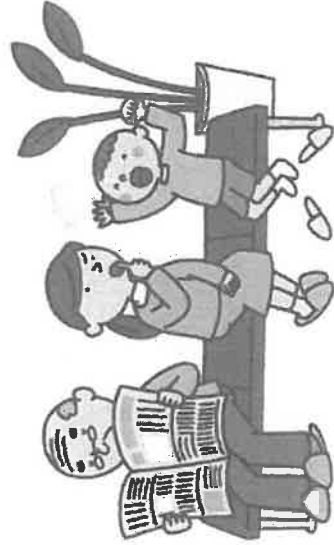


- ゲームは1日1時間。
- 宿題をすませてから友達と遊ぶ。
- 遊びに行くときは、誰と遊ぶか、どこへ行くかを必ず言う。
- 5時には帰ってくる。

6 善悪の判断を大切にしましょう

今後、集団生活を送るうえで、「善悪の判断力」は必要です。「順番を守る」「人のものを勝手に使わない。」「公共の場では、騒がない。」「人に暴力を振るわない。」「など、その場その場で教えていくことが大切です。間違った行為は真剣に叱り、その場で正すことが本場の愛情です。

そして、子どもは親のすることをよく見ています。親もルールに反することのないようにしましょう。



7 物の大切さを教え、がまん心を育てましょう

物のありがたさのわかる子に

入学当初の教室では、真新しい鉛筆・消しゴム・クレヨンなど、落し物が山のように集まります。

子どもには、「なくなったら、また買ってもらえばいい」という安易な考えがあります。自分の持ち物を大切にさせるためには、必要以上にお金や物を与えない、名前を必ず書かせる、最後まで使ったかを確認するなど、絶えず心配りをしましょう。



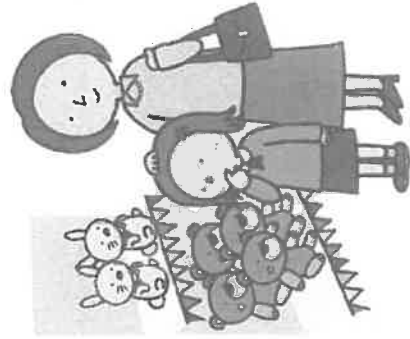
お母さん、消しゴム買って。まあ、けさはあったのに、どうしたの。切って遊んじゃったから、なくなっただの。まあ、もったいない。それに消しゴムさんがかわいそう。いつも勉強のお手伝いをしてくれるのに。きつと泣いているよ。

<親と子の会話より>

ほしくてもがまんする子に

おもちゃ売り場で、だだをこねる子どもに対して、親が子どものわがままに負けず、がまんする心を教えることは大切です。子どもの望むままに物やお金を与えると、子どもはほしいものを手に入れるためにがまんしたり工夫したりすることができなくなります。子どもの言うことを何でも聞くことが親のやさしさではありません。

ただ、どうして今買わないのかについて、「ダメ」と言うだけでなく、子どもにわかる言葉で話して聞かせましょう。そして、親もがまんする心の強さをもちましょう。



8 地域の一員として、地域の活動に 進んで参加しましょう

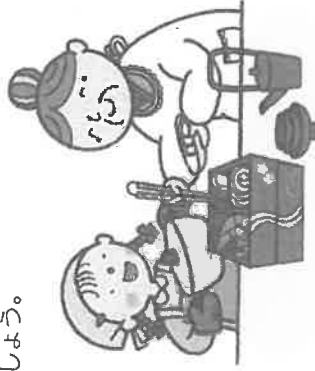
身近な地域のボランティア・スポーツ・文化活動・青少年団体の活動などは、それぞれ異なる年齢の集団の中で、子どもたちが切磋琢磨する貴重な機会を提供しています。親はその大切さを見直し、子どもを積極的に参加させ、地域の方と触れ合う機会を増やしましょう。



例えば

- 子ども会やスポーツ少年団
- PTA活動
- 町内行事
- 地区センターや公民館の活動・行事
- 地域の清掃活動

また、お正月やお祭りなどの伝統行事などには、先人のすばらしい技術や大変な苦労のあと、生活の知恵、自然や人を愛する心が込められています。身近な行事や生活の折にふれて、そうした先人たちの遺産について話しましょう。



- お祭りの軌やみこしの技術のすばらしさ
 - 受け継がれている食べ物の保存技術
 - 古い民具などにみられる生活の工夫
 - 季節の行事や風習に込められた意味
- (例)おせち料理の意味

- 黒豆…黒々とまめに元気に(健康)
- 田つくり…田つくり(イワシの稚魚 昔は田んぼの肥料だった)がうまくいくように(豊作)

9 自然とふれあう体験や読書を 習慣化しましょう

子どもはのびのび遊ばせましょう

遊びは子どもの心の成長にとっても大切です。小さいころからの遊びを通して、子どもは感覚を働かせること、運動すること、ものをつくること、想像することを学びます。

子どもにとって遊びの大切さを認識して、ゆったりのびのび遊ばせましょう。

自然の中で草木や動物とふれあいましょ

自然の中で草木や動物とふれあうことで、生き物への親しみや愛情を育てます。さまざまな生き物とその死にふれる機会を通して子どもに命の尊さや大切さを実感させましょう。



大自然の素晴らしさを感じましょ

子どもと一緒に、朝日、夕焼け、空、雲、月や星の様子を折にふれて観察しましょう。そして、大自然の不思議さや素晴らしさをもに味わいましょう。

読書する習慣を 身につけさせましょ

読書は、想像力や考える習慣を身につけ、豊かな感性や情操、思いやりの心などを育むことができます。

「読書の時間」を設ける、親子で図書館に行く、親と一緒に本を読むなど工夫して、子どもが読書の楽しさと出会えるきっかけをつくりましょう。

10 いじめについて考えましょ

「親は子どもの味方」という メッセージを伝えましょ

いじめは卑劣な行いです。いくら軽い遊びや悪ふざけ、ジョークのつもりでも、いじめられる側の苦しみ・痛みには死を覚悟するほど深刻なものです。

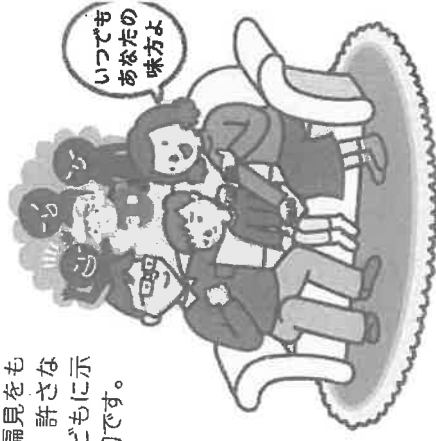
親は、子どもがいじめにあっているのではと感じたら、すぐに子どもと話し合いましょ。心の優しい子どもほど、いじめにあいやしく、誰にも悩みを打ち明けられないことがあります。日頃から子どもに対して、「必ず守ってあげるから、少しでも何かあったら話すように」と、言い続けましょ。また、子どもの示す小さな変化を見つけ、子どもの悩みや不安を受け止めてあげてください。

いじめは人間として 恥ずかしい行いであることを教えましょ

親は、わが子がいじめに加わったり他人を差別し傷つけていることに気が付いたりしたときは、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。

その際、理屈を言うより、子どもを愛していること、弱いものをいじめたり差別したりしたことを知ってショックだったこと、人を傷つけたことに怒りを感じたことなど、親として本当の気持ちを伝える努力をしましょ。

まず、親自身が偏見をもたず、差別しない、許さないということを子どもに示していくことが大切です。



👨👩「親は子どもの味方」というメッセージを伝えましょう

いじめは卑劣な行いです。いくら軽い遊びや悪ふざけ、ジョークのつもりでも、いじめられる側の苦しみ・痛みには死を覚悟するほど深刻なものです。

親は、子どもがいじめにあっているのではと感じたら、すぐに子どもと話し合います。心の優しい子どもほど、いじめにあいやすく、誰にも悩みを打ち明けられないことがあります。日頃から子どもに対して、「必ず守ってあげるから、少しでも何かあったら話すよ」と、言い続けましょう。また、子どもの示す小さな変化を見つけ、子どもの悩みや不安を受け止めてあげてください。

👨👩いじめは人間として 恥ずかしい行いであることを教えましょう

親は、わが子がいじめに加わったり他人を差別し傷つけていることに気が付いたりしたときは、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。

その際、理屈を言うより、子どもを愛していること、弱いものをいじめたり差別したりしたことを知ってシヨックだったこと、人を傷つけたことに怒りを感じたことなど、親として本当の気持ちを伝える努力をしましょう。

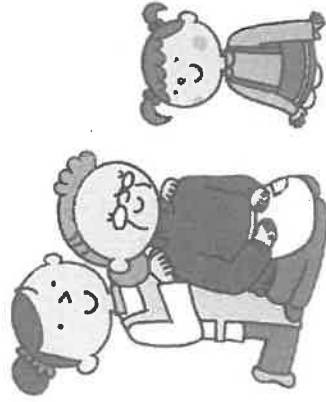
まず、親自身が偏見をもち、差別しない、許さないうことを子どもに示していくことが大切です。



👨👩親は子どもに姿で示しましょう

親に感謝し思いやる心は、広く人を思いやる心のもととなる大切なものです。まず、親が自らの親である祖父母を大切にする姿を、子どもに示しましょう。

大人は、その言動が子どもにとって大きな影響を与えるものであることを意識し、身近な家族に対して思いやる気持ちは具体的な姿で伝えましょう。



👨👩子どものよいところをその場でほめましょう

子どもが今後社会で生きていくときに必要なのは、自信と自分を大切に思う心です。これを「自己肯定感」と言います。これは植物の根のようなもので、広く深く張るほど、後に大きな実りをもたらします。

では、どうすれば「自己肯定感」は育つのでしょうか。それは、子どものよさをほめることです。日常生活の中で、その場その場で具体的な行為・行動について、周りの人からほめられることを通して、子どもは喜びを感じ、自信や自己肯定感、自己有用感が育っていきます。逆に、体罰は脳の萎縮につながり、自己肯定感が育ちにくいといわれます。

小さなことから、子どものよさを認めていきましょう。



やさしさと 思いやりの 心を

